2020 年

救急救命科　（2 学年）

2020 年度　シラバス目次

科目名	項
薬理学	2
心肺停止	4
ショック・循環不全	7
救急症候・病態生理学Ⅳ	9
疾病救急医学Ⅴ	11
疾病救急医学Ⅵ	15
外傷救急医学Ⅳ	19
環境障害・急性中毒	21
シミュレーション実習Ⅲ	25
シミュレーション実習Ⅳ	41
臨床実習	58

科目名	項

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	薬理学　（ Pharmacology　）
担当者	藤田　孝子・森　健
単位数（時間数）	1 単位（ 30 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 参考書：わかりやすい薬理学（ヌーヴェルヒロカワ）

授業概要と目的
【　学習目的　】 疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 医療従事者として医薬品に対する基礎的な薬理学の知識の習得を目標とする。まず総論で薬力学及び薬物動態学を通して薬理学の概要を学習する。次に各論で各々の臓器に作用する薬物の薬効と作用機序を副作用とともに学習する。 なお、薬剤師（薬学博士）として医療機関などで薬理学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「薬物（概論）」** 薬物に関する概論について理解する。	**「医薬品の種類」** ・薬物と製剤の違いについて説明できる。 ・第 1 類医薬品について説明できる。	藤田　孝子
2	前　期 (4 月～9 月)	**「薬力学・薬物動態学」** 薬物の生体に与える影響などについて理解する。	**「薬物動態」** ・薬物の吸収、分布、代謝、排泄について説明できる。	藤田　孝子
3	前　期 (4 月～9 月)	**「薬物の投与方法と剤形」** 薬物の代表的な投与経路および剤形のあり方について理解する。	**「薬物の投与方法など」** ・用量と用法の違いについて説明できる。	藤田　孝子
4	前　期 (4 月～9 月)	**「薬物の作用」** 薬物の量による有効域、中毒域（危険域）などの作用について理解する。	**「薬物の有害作用」** ・ED50 について説明できる。 ・LD50 について説明できる。	藤田　孝子
5	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系薬物（１）」** 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「神経系に作用する薬物」** ・神経系に作用する薬物の中枢神経系薬物と末梢神経薬物をそれぞれの概略について説明できる。	藤田　孝子

6	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系薬物（２）」** 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「交感神経系の作用薬」** ・アドレナリンにおける血管作用（α 作用・β 作用）について説明できる。	藤田　孝子
7	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系薬物（３）」** 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「筋弛緩薬」** ・筋弛緩薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
8	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系薬物（４）」** 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「麻酔薬・鎮痛薬」** ・リドカインおよびモルヒネの適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
9	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系薬物（５）」** 神経系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「向精神薬・抗てんかん薬など」** ・抗てんかん薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
10	前　期 (4 月～9 月)	**「循環系薬物」** 循環器系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「降圧薬・利尿薬・抗血栓薬など」** ・浸透圧利尿薬およびループ利尿薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
11	前　期 (4 月～9 月)	**「循環系薬物・呼吸器系薬物」** 循環器系･呼吸器系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「気管支喘息治療薬など」** ・β_2刺激薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
12	前　期 (4 月～9 月)	**「循環系薬物・呼吸器系薬物」** 循環器系･呼吸器系に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「抗炎症薬・ホルモン製剤など」** ・ステロイド薬の適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
13	前　期 (4 月～9 月)	**「感染症治療薬」** 感染症治療薬の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「抗生剤」** ・抗菌薬（抗生物質、抗生剤）の適応と使用上の注意について説明できる。	森　健
14	前　期 (4 月～9 月)	**「輸液・輸血製剤」** 輸液・輸血製剤の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「輸液・輸血製剤」** ・乳酸リンゲル液および酢酸リンゲル液の適応と成分について説明できる。	森　健
15	前　期 (4 月～9 月)	**「科目認定試験」**	これまでの学習内容について正しく説明できる。	森　健
成績評価方法		筆記試験（ 100 点満点 ） ＊　加点として平常点（プリントの作成）との合算とする。		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 薬理学は専門分野で広い範囲となりますので、プリント・教科書の毎回の復習をしていただきたいです。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	心肺停止　（ Cardiorespiration ）
担当者	大野　健二
単位数（時間数）	2 単位（　40 時間　）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 血液循環の基本原理を正確に理解し、心肺停止時にそれがどう変わるか、どう判断するか、そして処置について学習する。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「循環の生理学」** 心肺機能である循環機能に関する生理について理解する。	**「心臓の構造と機能」**救命士標準テキスト P.110 参照 ・駆出期における弁の開閉について説明できる。 ・冠循環について説明することができる。	大野　健二
2	前　期 (4 月～9 月)	**「循環の生理学」** 心肺機能である循環機能に関する生理について理解する。	**「心臓ポンプ機能」**救命士標準テキスト P.115 参照 ・スターリング曲線について説明できる。 ・前負荷と後負荷について説明できる。	大野　健二
3	前　期 (4 月～9 月)	**「心源性心停止」** 心機能停止による心停止の原因と病態生理について理解する。	**「不整脈による心停止」**標準テキスト P.482 参照 ・心源性心停止の原因について説明できる。	大野　健二
4	前　期 (4 月～9 月)	**「心停止の原因（末梢循環）」** 心肺蘇生法および心肺停止に至る病態と原因について理解する。	**「循環動態の変化」**救命士標準テキスト P.480 参照 ・カテコラミンなどによる循環動態の変化について説明できる。	大野　健二
5	前　期 (4 月～9 月)	**「呼吸源性心停止」** 呼吸機能停止による心停止の原因と病態生理について理解する。	**「呼吸不全による心停止」**テキスト P.480 参照 ・呼吸源性心停止の原因について説明できる。	大野　健二

6	前　期 (4 月～9 月)	**「心停止時の酸塩基平衡」** 心肺蘇生法および心肺停止に至る病態と原因について理解する。	**「低心拍出量」** 救命士標準テキスト P.481 参照 ・低心拍出量によるアシドーシスの発生機序について説明できる。	大野　健二
7	前　期 (4 月～9 月)	**「心肺蘇生中の循環の実態」** 胸骨圧迫による循環発生の機序について理解する。	**「冠灌流圧と脳灌流圧」** 標準テキスト P.482 参照 ・冠灌流圧の求め方について説明できる。 ・脳灌流圧の求め方について説明できる。	大野　健二
8	前　期 (4 月～9 月)	**「虚血後の臓器とその回復」** 虚血後の心筋などの回復に関する病態生理について理解する。	**「再灌流障害」** 救命士標準テキスト P.484 参照 ・再灌流障害について説明できる。 ・気絶心筋について説明できる。	大野　健二
9	前　期 (4 月～9 月)	**「小児・新生児の救急蘇生法」** 小児・新生児の救急相性法とガイドラインについて理解する。	**「PBLS アルゴリズム」** 標準テキスト P.425 参照 ・PBLS アルゴリズムのフローチャートについて説明できる。	大野　健二
10	前　期 (4 月～9 月)	**「小児・新生児の救急蘇生法」** 小児・新生児の救急相性法とガイドラインについて理解する。	**「小児心停止アルゴリズム」** テキスト P.425 参照 ・小児心停止アルゴリズムのフローチャートについて説明できる。	大野　健二
11	前　期 (4 月～9 月)	**「心肺蘇生法演習」** 救急現場における心肺蘇生法に関する病態生理について理解する。	**「心肺蘇生法」** テキスト P.420 参照 ・救急現場における心肺停止時の病態生理をふまえ、心肺蘇生法の必要性について説明できる。	大野　健二
12	前　期 (4 月～9 月)	**「意識障害」** 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「意識障害の原因疾患」** 標準テキスト P.488 参照 ・一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の違いについて説明できる。	大野　健二
13	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系疾患（１）」** 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「脳出血」** テキスト P.552 参照 ・脳出血の疫学、病院、病態、好発部位、症候、現場活動について説明できる。	大野　健二
14	前　期 (4 月～9 月)	**「神経系疾患（２）」** 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「脳梗塞」** テキスト P.548 参照 ・脳梗塞の疫学、種類、病因、病態、症候、予後、現場活動について説明できる。	大野　健二
15	前　期 (4 月～9 月)	**「呼吸運動の障害」** 呼吸運動障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「呼吸運動障害の原因」** 標準テキスト P.454 参照 ・中枢神経系、末梢神経系、呼吸筋、胸郭の呼吸運動障害の主な原因と発生機序について説明できる。	大野　健二
16	前　期 (4 月～9 月)	**「心肺停止時に用いる薬物」** 心肺停止時に作用する薬物の適応、禁忌、使用上の注意について理解する。	**「アドレナリンなど」** ・アドレナリンの適応と使用上の注意について説明できる。	大野　健二
17	前　期 (4 月～9 月)	**「まとめ」** 救急現場における心肺蘇生法に関する病態生理および処置・搬送について理解する。	**「心肺蘇生法」** テキスト P.420 参照 ・救急現場における心肺停止時の処置・搬送について説明できる。	大野　健二

18	前　期 (4 月～9 月)	**「まとめ」** 救急現場における心肺蘇生法に関する病態生理および処置・搬送について理解する。	**「小児の心肺蘇生法」** テキスト P.425 参照 ・救急現場における小児の心肺停止時の処置・搬送について説明できる。	大野　健二
19	前　期 (4 月～9 月)	**「まとめ」** 救急現場における心肺蘇生法に関する病態生理および処置・搬送について理解する。	**「特殊な状況における心肺蘇生法」** ・救急現場における在宅療法適応時・脳血管障害時の心肺停止時の処置・搬送について説明できる。	大野　健二
20	前　期 (4 月～9 月)	**「科目認定試験」**	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野　健二
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 血液循環の基本原理を正確に理解し、心肺停止時にそれがどう変わるか、を理解する。 ショックは典型的な低酸素症であり、hypoxia の起こる機序を理解することが最も重要である。その理解には循環の生理を正確に知ることが必須である。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	ショック・循環不全　（ shock & Circulatory arrest ）
担当者	大野　健二
単位数（時間数）	1 単位（　20 時間　）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** ショック・循環不全の病態生理を理解した上で症状、治療、重症度の判断を学ぶ。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「ショック総論」** ショックの定義と発生機序について理解する。	**「ショックの定義」** 救命士標準テキスト P.463 参照 ・ショックの発生機序（4 種類）について説明できる。 ・乳酸蓄積によるアシドーシスについて説明できる。	大野　健二
2	前　期 (4 月～9 月)	**「循環生理総論」** ショックの病態生理について理解する。	**「循環系の生理」** 救命士標準テキスト P.463 参照 ・平均動脈圧の構成因子について説明できる。	大野　健二
3	前　期 (4 月～9 月)	**「循環管理総論（循環制御など）」** 循環系における神経と内分泌の生体反応について理解する。	**「心拍出量と循環制御」** 標準テキスト P.463 参照 ・大量出血後にみられる体液の変動およびその内分泌の生体反応について説明できる。	大野　健二
4	前　期 (4 月～9 月)	**「ショックの分類」** 発症状況別によるショックの種類について理解する。	**「各種ショックの特徴」** 標準テキスト P.464 参照 ・循環血液量減少性ショック時の心拍出量、心拍数、皮膚所見について説明できる。	大野　健二
5	前　期 (4 月～9 月)	**「循環血液量減少性ショック」** 循環血液量減少性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「自律神経・内分泌の反応」** テキスト P.464 参照 ・循環血液量減少に対する生体の反応（自律神経・内分泌）について説明できる。	大野　健二
6	前　期 (4 月～9 月)	**「心源性ショック」** 心源性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「原因疾患と発生機序」** 標準テキスト P.467 参照 ・心源性ショックの主な原因について説明できる。 ・左心不全合併時の典型的な徴候について説明できる。	大野　健二

7	前　期 (4 月～9 月)	**「心外閉塞性・拘束性ショック」** 心外閉塞性・拘束性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「原因疾患と発生機序」** 標準テキスト P.468 参照 ・心外閉塞性・拘束性ショックの主な原因について説明できる。	大野　健二
8	前　期 (4 月～9 月)	**「血液分布異常性ショック」** 血液分布異常性ショックの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「原因疾患と発生機序」** 標準テキスト P.469 参照 ・アナフィラキシーショックの発症機序について説明できる。	大野　健二
9	前　期 (4 月～9 月)	**「科目認定試験」**	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野　健二
10	前　期 (4 月～9 月)	**「試験の解答・解説」**	試験フィードバック後にこれまでの学習内容について正しく説明できる。	大野　健二
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 特になし		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	救急症候・病態生理学Ⅳ　（ Symptoms and PathophysiologyⅣ）
担当者	大竹　宗也
単位数（時間数）	1 単位（　16 時間　）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 救急症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** １）血糖値の調節機構を理解し、その異常を起こす病態を理解する。 ２）血糖値の異常が起こす生理学的意義を理解する。 ３）ストレスに曝された患者に起こりやすい血糖値の異常の発生機序を理解する。 ４）血糖値異常の具体的な治療の方法とその効果判定方法を理解する。 血液循環の基本原理を正確に理解し、心肺停止時にそれがどう変わるか、どう判断するか、そして処置について学習する。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「代謝の中枢」** 肝機能および腎機能について理解する。	**「肝機能」** 救命士標準テキスト P.153 参照 ・糖代謝・蛋白代謝・脂質代謝について概要を説明できる。	大竹　宗也
2	前　期 (4 月～9 月)	**「ホルモンと自律神経」** 内分泌および自律神経の役割について理解する。	**「甲状腺機能」** P.171 参照 ・甲状腺による糖代謝、蛋白代謝、脂質代謝、エネルギー代謝について説明できる。	大竹　宗也
3	前　期 (4 月～9 月)	**「糖代謝とＴＡＣサイクル」** ミトコンドリアによる糖代謝について理解する。	**「ＴＣＡサイクル」** 標準テキスト P.69 参照 ・ＴＣＡサイクルにおけるグルコースからＡＴＰ産生までの好気性代謝について説明できる。	大竹　宗也
4	前　期 (4 月～9 月)	**「糖代謝とインスリン」** 糖代謝とインスリンの関係性について理解する。	**「糖質の代謝異常」** 救命士標準テキスト P.230 参照 ・Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病のそれぞれの好発年齢や特徴的な症状について説明できる。	大竹　宗也

5	前　期 (4 月～9 月)	**「脂質異常」** 脂質異常の概念、疫学、病態、症候について理解する。	**「脂質の代謝異常」** 救命士標準テキスト P.231 参照 ・メタボリックシンドロームの定義について説明できる。	大竹　宗也
6	前　期 (4 月～9 月)	**「水の代謝」** 体液と電解質の関係性について理解する。	**「脱水症」** 救命士標準テキスト P.233 参照 ・各種脱水症（高張性・等張性・低張性）を列挙し、それぞれの特徴について説明できる。	大竹　宗也
7	前　期 (4 月～9 月)	**「まとめ」** 低血糖、高血糖などの発症機序について総合的に理解する。	**「糖尿病のまとめ」** 救命士標準テキスト P.803 参照 ・経口血糖降下薬とインスリン療法の適応について説明できる。	大竹　宗也
8	前　期 (4 月～9 月)	**「科目認定試験」**	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大竹　宗也
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	疾病救急医学Ⅴ　－　高齢者に特有な疾患　－ （　Emergency　Medicine Ⅳ － Diseases of aged People －　）
担当者	小澤　勝男
単位数（時間数）	1 単位（ 高齢者に特有な疾患分野 10 時間 ＋ 精神障害分野 10 時間 ＝ 合計 20 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 高齢の傷病者を扱うさいには、高齢者の身体の構造的・生理的・精神的特徴を考慮する必要がある。それには加齢に伴う生理的機能や予備力、修復力の低下などや精神面の特徴をよく理解することが必要である。その上で主要な徴候とその対処法や高齢者によくみられる各種救急疾患について学習する。 ＊　高齢化によって人体に起こる変化とそれによって生じる疾患について学習する。 なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「総　論」** 加齢に伴う身体機能・精神機能の変化について、その概要を理解する。	**「予備能の低下に伴う障害」** テキスト P.658 参照 ・加齢に伴う生理機能の低下について説明できる。	小澤　勝男
2	前　期 (4 月～9 月)	**「高齢者疾患の特徴」** 高齢者疾患の特徴を個人差、基礎疾患、常用薬、非典型的症候について理解する。	**「高齢者疾患の症候」** 標準テキスト P.660 参照 ・高齢者の呼吸困難、意識障害、腹痛などの特徴について説明できる。	小澤　勝男
3	前　期 (4 月～9 月)	**「高齢者の特有な疾患」** 高齢者の特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「認知症・高齢者虐待」** 標準テキスト P.662 参照 ・認知症および高齢者虐待の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤　勝男
4	前　期 (4 月～9 月)	**「高齢者の特有な疾患」** 高齢者の特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「せん妄・肺気腫など」** 標準テキスト P.663 参照 ・せん妄および肺気腫の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤　勝男

5	前　期 (4 月～9 月)	**「高齢者の特有な疾患」** 高齢者の特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「骨粗鬆症・前立腺肥大」** テキスト P.664 参照 ・骨粗鬆症および前立腺肥大の定義、原因、症状、観察、処置について説明できる。	小澤　勝男
成績評価方法		筆記試験　高齢者に特有な疾患分野 50 点　＋　精神障害分野 50 点　＝　合計 100 点満点		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 高齢者の特徴をよく理解する。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	疾病救急医学Ⅴ － 精神障害分野 －（Emergency　Medicine Ⅳ － Mental Disturbance －）
担当者	岸田　紀子
単位数（時間数）	1 単位（ 高齢者に特有な疾患分野 10 時間 ＋ 精神障害分野 10 時間 ＝ 合計 20 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 精神科医療は、時代の流れのなかノーマライゼーションの理念とともに「精神病院・施設」から「「地域のなかへ」というテーマを具体化する転換期にある。そのような動きの中、精神障害者の地域生活の実現のために精神科救急は切実な課題となっている。精神科救急医療体制の整備の不十分とともに、現場では精神障害者の対応に困難を感じる場合も少なからず存在しているのが現実であろう。本講義ではまず第 1 歩として精神障害の理解を学習してほしい。 なお、精神保健福祉士として医療機関・研究機関などで精神障害分野に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「総　論」** 精神障害を原因、症状の両面から大まかに分類し、それぞれの概要を理解する。	**「精神障害の分類」** テキスト P.676 参照 ・精神障害の分類により原因からの分類と症状について説明できる。	岸田　紀子
2	前　期 (4 月～9 月)	**「統合失調症」** 統合失調症の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「統合失調症の症候」** 標準テキスト P.680 参照 ・統合失調症における陽性症状、陰性症状、認知障害について説明できる。	岸田　紀子
3	前　期 (4 月～9 月)	**「気分障害・器質性精神障害」** 気分障害などの疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「うつ病と双極性障害」** 標準テキスト P.681 参照 ・うつ病の三大妄想について説明できる。 ・自殺企図に対する「TALK の原則」を説明できる。	岸田　紀子
4	前　期 (4 月～9 月)	**「その他の精神障害」** パニック障害などの疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「パニック障害など」** テキスト P.683 参照 ・パニック障害の発作の特徴ついて説明できる。 ・悪性症候群の症状について説明できる。	岸田　紀子

5	前　期 (4 月～9 月)	**「精神保健福祉法」** 救急現場における精神障害時の搬送について理解する。	**「入院形態など」** テキスト P.38 参照 ・精神保健福祉法における 5 つの入院形態の特徴について説明できる。	岸田　紀子
成績評価方法		筆記試験　高齢者に特有な疾患分野 50 点　＋　精神障害分野 50 点　＝　合計 100 点満点		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 解剖図などと併合しながら学習すると良い。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	疾病救急医学Ⅵ　－　小児に特有な疾患　－ （ Emergency　Medicine Ⅵ　－　Neonates & Pediatrics　－ ）
担当者	伊藤　友理枝、伊藤　友弥、池山　由紀、石川　祥一朗
単位数（時間数）	1 単位（ 小児に特有な疾患分野 18 時間 ＋ 妊娠・分娩と救急疾患分野 12 時間 ＝ 合計 30 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 救急救命士として、新生児を含む大人とはちがう小児の特性・生理的特徴を理解し、大人とは異なる必要な救急疾患についての基礎的な知識を学ぶ。小児の場合は時間的な余裕がなく迅速な判断と処置が要求されるため、大人とは違い自分で詳細に説明できない小児には特に注意深い観察が必要性を学習する。 なお、医師として医療機関などで小児医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「小児の特徴」** 小児の生理学的特徴および成長に伴う形態・機能の変化について理解する。	**「総　論」** 救命士標準テキスト P.644 参照 ・小児の代表的救急疾患の好発年齢を説明できる。 ・成長に伴う形態の変化について説明できる。	池山　由紀
2	前　期 (4 月～9 月)	**「小児救急の対応」** 発達による救急疾患の変化、小児の観察と判断について理解する。	**「小児の症状の特徴」** 標準テキスト P.646 参照 ・小児に特有な疾患の観察要点、病歴聴取の要点について説明できる。	池山　由紀
3	前　期 (4 月～9 月)	**「小児に特有な疾患（１）」** 小児に特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「熱性痙攣など」** 標準テキスト P.649 参照 ・熱性痙攣および急性喉頭蓋炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	伊藤 友理枝
4	前　期 (4 月～9 月)	**「小児に特有な疾患（２）」** 小児に特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「腸重積など」** 標準テキスト P.653 参照 ・腸重積および川崎病の病態、症状、観察、処置について説明できる。	伊藤 友理枝

5	前　期 (4 月～9 月)	**「小児に特有な疾患（３）」** 小児に特有な疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	**「突発性発疹など」** テキスト P.654 参照 ・乳幼児突然死症候群および被虐待児症候群の要因、症状、観察、対処について説明できる。	伊藤　友弥
6	前　期 (4 月～9 月)	**「小児に特有な疾患（４）」** 救命士国家試験における小児に特有な疾患の疫学、病態、症候などについて理解する。	**「小児に特有な疾患のまとめ」** ・小児に特有な疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要について説明できる。	伊藤　友弥
7	前　期 (4 月～9 月)	**「小児の事故予防」** 小児の事故予防について理解する。	**「小児の特徴と事故予防」** ・小児の特徴をふまえ、事故の危険因子について説明できる。	石川 祥一朗
8	前　期 (4 月～9 月)	**「演　習」** 救急救命士国家試験出題内容における小児に特有な疾患について理解する。	**「小児に特有な疾患のまとめ」** ・小児に特有な疾患の概要について説明できる。	石川 祥一朗
9	前　期 (4 月～9 月)	**「新生児蘇生法（NCPR）」** 救急現場における新生児蘇生の観察、処置について理解する。	**「新生児蘇生アルゴリズム」** ・NCPR における初期処置およびその後のアルゴリズムについて説明できる。	池山　由紀
成績評価方法		筆記試験 小児に特有な疾患分野 60 点　＋　妊娠・分娩と救急疾患分野 40 点　＝　合計 100 点満点		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 小児と成人の相違点、小児の特性を理解する。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	疾病救急医学Ⅵ　－　妊娠・分娩と救急疾患　－ （ Emergency　Medicine Ⅵ　－　Obsterics & Gynecology　－ ）
担当者	川辺　恵美子
単位数（時間数）	1 単位（ 小児に特有な疾患分野 18 時間 ＋ 妊娠・分娩と救急疾患分野 12 時間 ＝ 合計 30 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 産婦人科疾患の病態と治療について、医療者として理解しておかなければならない基本的な事項について習得することを目的に学習する。 １）産婦人科疾患の大半を占める正常分娩の管理を理解する。 ２）異常妊娠・異常分娩の病態を理解し、管理を学ぶ。 なお、助産師として医療機関などで産婦人科医学・周産期医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「妊娠の成立」** 排卵から着床までの経過の概要について理解する。	**「正常妊娠」** 救命士標準テキスト P.665 参照 ・受精と着床について説明できる。 ・胎児附属物について説明できる。	川辺 恵美子
2	前　期 (4 月～9 月)	**「妊娠初期～中期の異常」** 妊娠初期～中期の異常の概念とそれぞれの病態、症候について理解する。	**「流産・異所性妊娠など」** テキスト P.667 参照 ・流産の種類とそれぞれの特徴について説明できる。 ・異所性妊娠の症状について説明できる。	川辺 恵美子
3	前　期 (4 月～9 月)	**「妊娠後期の異常・正常分娩」** 妊娠後期の異常の概念とそれぞれの病態、症候について理解する。	**「子癇・常位胎盤早期剥離」** テキスト P.668 参照 ・子癇の定義について説明できる。 ・常位胎盤早期剥離の病態、症状について説明できる。	川辺 恵美子
4	前　期 (4 月～9 月)	**「新生児の処置と管理」** 新生児蘇生における観察、処置、管理について理解する。	**「新生児蘇生（NCPR）」** テキスト P.674 参照 ・新生児蘇生アルゴリズムに従った観察、処置について説明できる。	川辺 恵美子

5	前　期 (4 月～9 月)	**「異常分娩」** 異常分娩と主な疾患の病態、症候、対応について理解する。	**「早産・弛緩出血など」** テキスト P.670 参照 ・早産の定義について説明できる。 ・弛緩出血時の応急処置について説明できる。	川辺 恵美子
6	前　期 (4 月～9 月)	**「車中分娩介助など」** 車中分娩における観察、処置、管理について理解する。	**「分娩介助」** 救命士標準テキスト P.670 参照 ・救急車内における分娩介助の手順について説明できる。	川辺 恵美子
成績評価方法	筆記試験 小児に特有な疾患分野 60 点　＋　妊娠・分娩と救急疾患分野 40 点　＝　合計 100 点満点			
準備学習など	**【　講師からのアドバス　】** 特になし			

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	外傷救急医学　Ⅳ　（ Trauma　and　Emergency　Medicine　Ⅳ ）
担当者	城所　仁
単位数（時間数）	1 単位（　30 時間　）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 妊婦、小児、高齢者の特徴をふまえた起こりやすい外傷、その取扱いについても知識を追加し、熱傷、化学損傷、電撃症、雷撃症、縊頸・絞頸、刺咬傷についても知識を広げ、その対応を学習する。 なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「小児の外傷」** 小児の外傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「主な小児の外傷」** 標準テキスト P.755 参照 ・乳幼児揺さぶられ症候群および肘内障の発生機序について説明できる。	城所　仁
2	前　期 (4 月～9 月)	**「高齢者の外傷」** 高齢者の外傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「主な高齢者の外傷」** 標準テキスト P.757 参照 ・高齢者の受傷機転の評価における注意点について説明できる。	城所　仁
3	前　期 (4 月～9 月)	**「妊婦の外傷」** 妊婦の外傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「主な妊婦の外傷」** 標準テキスト P.759 参照 ・妊婦の外傷時の評価・処置の注意点について説明できる。	城所　仁
4	前　期 (4 月～9 月)	**「熱　傷（1）」** 熱傷の疫学、受傷機転、分類、現場活動について理解する。	**「熱傷の受傷機転と病態」** テキスト P.760 参照 ・気道熱傷の種類と気道熱傷を疑う所見について説明できる。	城所　仁
5	前　期 (4 月～9 月)	**「熱　傷（2）」** 熱傷の疫学、受傷機転、分類、現場活動について理解する。	**「熱傷の評価と重症度分類」** テキスト P.762 参照 ・9 の法則、小児の 5 の法則について説明できる。 ・アルツの基準より受傷熱傷について説明できる。	城所　仁

6	前　期 (4 月～9 月)	**「化学損傷（１）」** 化学損傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「化学損傷の種類」** テキスト P.766 参照 ・フッ化水素酸による化学損傷の特徴について説明できる。	城所　仁
7	前　期 (4 月～9 月)	**「化学損傷（２）」** 化学損傷の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「化学損傷の現場活動」** テキスト P.769 参照 ・化学損傷における観察と処置の要点について説明できる。	城所　仁
8	前　期 (4 月～9 月)	**「電撃症・雷撃症（１）」** 電撃症・雷撃症の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「電撃症」** テキスト P.772 参照 ・電撃症における危険な病態について説明できる。	城所　仁
9	前　期 (4 月～9 月)	**「電撃症・雷撃症（２）」** 電撃症・雷撃症の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「雷撃症」** テキスト P.775 参照 ・雷撃症におけるトリアージの特徴について説明できる。	城所　仁
10	前　期 (4 月～9 月)	**「縊頸・絞頸」** 縊頸・絞頸の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「縊頸・絞頸の違い」** テキスト P.778 参照 ・縊死と絞死（扼死）の発生機序について説明できる。	城所　仁
11	前　期 (4 月～9 月)	**「刺咬症（傷）（１）」** 刺咬症（傷）の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「哺乳類による咬症」** テキスト P.781 参照 ・哺乳類による咬症の特徴と、観察・処置の要点について説明できる。	城所　仁
12	前　期 (4 月～9 月)	**「刺咬症（傷）（２）」** 刺咬症（傷）の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「爬虫類・節足動物による咬症」** P.782 参照 ・爬虫類・節足動物による咬症の特徴と、観察・処置の要点について説明できる。	城所　仁
13	前　期 (4 月～9 月)	**「刺咬症（傷）（３）」** 刺咬症（傷）の疫学、受傷機転、現場活動について理解する。	**「海洋生物による刺咬症」** テキスト P.784 参照 ・海洋生物による刺咬症の特徴と、観察・処置の要点について説明できる。	城所　仁
14	前　期 (4 月～9 月)	**「総　括」** 外傷時の現場活動での観察、処置、搬送について総合的に理解する。	**「まとめ」** ・外傷の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場活動について説明できる。	城所　仁
15	前　期 (4 月～9 月)	**「科目認定試験」**	これまでの学習内容について正しく説明できる。	城所　仁
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 知っている身近な幾つかの病気から知識を発展させるとよい。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	環境障害・急性中毒　－　環境障害分野　－　（ Environmental Hazard and Toxicology ）
担当者	侘美　好昭
単位数（時間数）	1 単位（ 環境障害分野 18 時間 ＋ 急性中毒分野 12 時間 ＝ 合計 30 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 人は恒温動物あるが、その対応調整の仕組みについて学習する。 減圧症、高山病は基本的には圧力と酸素分圧の問題であるが、特殊な環境で起こる障害として特別の対処法を学習する。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学（主に麻酔・蘇生学）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「溺　水」** 溺水の危険因子、病態、症候、予後について理解する。	**「溺水の危険因子」** 標準テキスト P.812 参照 ・溺水の予後について説明できる。 ・溺水傷病者の観察と処置について説明できる。	侘美　好昭
2	前　期 (4 月～9 月)	**「熱中症」** 熱中症の発生機序、分類、症候、予後について理解する。	**「熱中症の発生機序」** 標準テキスト P.816 参照 ・熱中症の発生機序について説明できる。 ・熱中症分類とその症状について説明できる。	侘美　好昭
3	前　期 (4 月～9 月)	**「偶発性低体温症（1）」** 低体温症の発生機序、病態、観察、処置について理解する。	**「発生機序と病態生理」** 標準テキスト P.821 参照 ・偶発性低体温症の発生機序と病態生理について説明できる。	侘美　好昭
4	前　期 (4 月～9 月)	**「偶発性低体温症（2）」** 低体温症の発生機序、病態、観察、処置について理解する。	**「観察と処置の要点」** テキスト P.822 参照 ・偶発性低体温症傷病者に対する観察、処置について説明できる。	侘美　好昭
5	前　期 (4 月～9 月)	**「異　物」** 異物の危険因子、種類、観察、処置について理解する。	**「気道の完全異物」** 標準テキスト P.808 参照 ・気道の完全閉塞（窒息）および消化管異物の症状と処置について説明できる。	侘美　好昭

6	前　期 (4 月～9 月)	**「減圧障害・急性高山病」** 減圧症および高山病の危険因子、病態、観察、処置について理解する。	**「観察と処置の要点」** 標準テキスト P.833 参照 ・減圧障害の病型と観察、処置について説明できる。 ・急性高山病の観察、処置について説明できる。	侘美　好昭
7	前　期 (4 月～9 月)	**「酸素欠乏症・凍傷」** 酸素欠乏症および凍傷の危険因子、病態、症候、予後について理解する。	**「観察と処置の要点」** 標準テキスト P.836 参照 ・酸素欠乏症の症状と観察。処置について説明できる。 ・凍傷の深度分類と観察、処置について説明できる。	侘美　好昭
8	前　期 (4 月～9 月)	**「まとめ」** 環境障害の発症機序について総合的に理解する。	**「環境障害のまとめ」** ・環境障害発生時の救急活動の要点について説明できる。	侘美　好昭
9	前　期 (4 月～9 月)	**「まとめ」** 環境障害の発症機序について総合的に理解する。	**「環境障害のまとめ」** ・環境障害発生時の救急活動の要点について説明できる。	侘美　好昭
成績評価方法		筆記試験　環境障害分野 60 点 ＋ 急性中毒分野 40 点 ＝ 合計 100 点満点		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 環境障害によって生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	環境障害・急性中毒　－　急性中毒分野　－　（ Environmental Hazard and Toxicology ）
担当者	妹尾　洋
単位数（時間数）	1 単位（ 環境障害分野 18 時間 ＋ 急性中毒分野 12 時間 ＝ 合計 30 時間 ）
学習方法	講　義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 **【　授業概要　】** 種々の薬剤、薬品が家庭でも職場でも多く存在する。取扱に注意しないと二次的被害が起こることもあり、注意が必要である。よく起こる事例を中心に各種薬剤の障害について学習する。 なお、医師（医学博士）として研究機関などで法医学（司法解剖）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	前　期 (4 月～9 月)	**「中毒総論（１）」** 中毒物質の特徴を把握し、それらの随伴症状、観察、処置について理解する。	**「中毒物質の種類と特徴」** テキスト P.788 参照 ・家庭用品で問い合わせの多い中毒物質について説明できる。	妹尾　洋
2	前　期 (4 月～9 月)	**「中毒総論（２）」** 中毒物質の特徴を把握し、それらの随伴症状、観察、処置について理解する。	**「中毒の判断など」** テキスト P.792 参照 ・縮瞳および散瞳を呈する急性中毒について説明できる。	妹尾　洋
3	前　期 (4 月～9 月)	**「中毒各論（１）」** 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	**「医薬品中毒」** 標準テキスト P.798 参照 ・アスピリン中毒の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾　洋
4	前　期 (4 月～9 月)	**「中毒各論（２）」** 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	**「農薬・工業用品中毒」** テキスト P.798 照 ・有機リン系中毒およびシアンの症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾　洋
5	前　期 (4 月～9 月)	**「中毒各論（３）」** 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	**「ガス・アルコール中毒」** テキスト P.800 参照 ・一酸化炭素中毒の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾　洋

6	前　期 (4 月～9 月)	**「中毒各論（４）」** 急性中毒の随伴症状を把握し、それらの観察、処置について理解する。	**「自然毒・家庭用品中毒」** テキスト P.804 参照 ・タバコ誤食の症状と処置・観察の概要について説明できる。	妹尾　洋
成績評価方法		筆記試験　環境障害分野 60 点 ＋ 急性中毒分野 40 点 ＝ 合計 100 点満点		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ　（ Simulation Ⅲ ）
担当者	有嶋 拓郎、笠原 容子、川辺 恵美子、五藤 悦子　＊五十音順
単位数（時間数）	7 単位（　外来講師 32 時間 ＋ 専任講師 283 時間 ＝ 315 時間　）
学習方法	実　習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 **【　授業概要　】** １）救急隊員による基本的な観察方法を学習する。 ２）救急隊員による脳卒中の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 ３）救急隊員による意識障害の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 ４）救急隊員による分娩介助および周産期疾患の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。 ５）救急隊員による乳幼児および小児に対する接遇方法を学習する。 なお、医師もしくは看護師などの医療従事者として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	通　年 (4 月～3 月)	**「基礎演習（１）」** 救急隊員による基本的な観察方法について理解する。	**「呼吸・脈拍測定」** ・呼吸数および脈拍数の測定が実施できる。	笠原 容子
2	通　年 (4 月～3 月)	**「基礎演習（２）」** 救急隊員による基本的な観察方法について理解する。	**「血圧測定」** ・聴診および触診による血圧測定が実施できる。	笠原 容子
3	通　年 (4 月～3 月)	**「基礎演習（３）」** 救急隊員による基本的な観察方法について理解する。	**「心電図測定」** ・モニター心電図および十二誘導心電図の測定が実施できる。	笠原 容子

4	通　年 (4 月～3 月)	「基礎演習（４）」 救急隊員による基本的な観察方法について理解する。	「バイタルサインの測定」 ・模擬傷病者に対して意識・呼吸・循環の評価が実施できる。	笠原 容子
5	通　年 (4 月～3 月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」テキスト P.670 参照 ・妊娠・分娩と救急疾患の観察、評価、鑑別について実施できる。	川辺 恵美子
6	通　年 (4 月～3 月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「妊娠・分娩と救急疾患」テキスト P.670 参照 ・妊娠・分娩と救急疾患の観察、評価、鑑別について実施できる。	川辺 恵美子
7	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC 日本臨床救急医学会公認コース」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 各 論」PCEC ガイドブック ・PCEC プロトコールにおける初期評価などが実施できる。	有嶋 拓郎
8	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC 日本臨床救急医学会公認コース」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 各 論」PCEC ガイドブック ・PCEC プロトコールにおける意識障害の原因検索などが実施できる。	有嶋 拓郎
9	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC 日本臨床救急医学会公認コース」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 各 論」PCEC ガイドブック ・PCEC プロトコールを把握し、低血糖傷病者に対する観察、処置、搬送が実施できる。	有嶋 拓郎
10	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC 日本臨床救急医学会公認コース」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 各 論」PCEC ガイドブック ・PCEC プロトコールを把握し、脳卒中（脳梗塞）傷病者に対する観察、処置、搬送が実施できる。	有嶋 拓郎
11	通　年 (4 月～3 月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「分娩介助」テキスト P.670 参照 ・正期産時の分娩介助を把握し、処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子
12	通　年 (4 月～3 月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「分娩介助」テキスト P.670 参照 ・正期産時の分娩介助を把握し、処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子
13	通　年 (4 月～3 月)	「乳幼児コミュニケーション論」 救急現場における乳幼児および小児に対する接遇方法ついて理解する。	「乳幼児への対応」 ・乳幼児の発達・発育の特徴をふまえ、適切なコミュニケーションが実施できる。	五藤 悦子
14	通　年 (4 月～3 月)	「乳幼児コミュニケーション論」 救急現場における乳幼児および小児に対する接遇方法ついて理解する。	「小児への対応」 ・乳幼児の発達・発育の特徴をふまえ、救急現場における和ませ方が実施できる。	五藤 悦子
15	通　年 (4 月～3 月)	「BLSO 分娩介助 実践論」 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	「NCPR 新生児蘇生法」テキスト P.674 参照 ・NCPR プロトコールを把握し、新生児出生時の処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子

16	通　年 (4 月～3 月)	**「BLSO 分娩介助 実践論」** 救急現場における分娩介助の方法、注意事項などについて理解する。	**「NCPR 新生児蘇生法」** テキスト P.674 参照 ・NCPR プロトコールを把握し、新生児出生時の処置及び搬送法について実施できる。	川辺 恵美子
成績評価方法		救急技術発表会における実技試験（100 点満点）		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	シミュレーション実習Ⅲ　（ Simulation Ⅲ ）
担当者	石河　康司、大竹　宗也、大野　健二、柴尾　隆行、廣崎　英和
単位数（時間数）	7 単位（　外来講師 32 時間 ＋ 専任講師 283 時間 ＝ 315 時間　）
学習方法	実　習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 PSLS ガイドブック 2015、PCEC ガイドブック 2016、PEMEC ガイドブック 2017

授業概要と目的

【　学習目的　】

修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。

【　授業概要　】

1）救急隊員による脳卒中の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。

2）救急隊員による意識障害の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。

3）救急隊員による疾病の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。

4）救急隊員による集団災害時の観察・処置の標準化されたガイドラインに準じたシミュレーション教育を学習する。

5）救急救命士養成課程における臨床実習の事前研修として必要となる観察と評価などを学習する。

6）救急現場における問診情報、観察所見より臨床推論について学習する。

7）その他（規律訓練などの実技指導、乳幼児の心肺蘇生法などの実技指導）

なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

【注意事項】101 コマ以降は臨床実習残留期間中に実施するために前期日程および後期日程の両方の日程を掲示する。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	通　年 (4 月～3 月)	**「訓練礼式の補助指導（1）」** 気をつけなどの消防機関で行われている各個訓練の指導方法について理解する。	**「各個訓練」** ・「気をつけ」姿勢のポイントをふまえて指導できる。 ・「整列休め」姿勢のポイントをふまえて指導できる。	大野　健二
2	通　年 (4 月～3 月)	**「訓練礼式の補助指導（2）」** 気をつけなどの消防機関で行われている各個訓練の指導方法について理解する。	**「各個訓練」** ・「回れ右」行動のポイントをふまえて指導できる。 ・「右向け右」行動のポイントをふまえて指導できる。	大野　健二

3	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
4	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
5	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
6	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
7	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
8	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
9	通　年 (4 月～3 月)	**「JPTEC ＋ 輸液　実践論（３）」** 外傷時の循環管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「心肺停止前の静脈路確保」**JPTEC ガイドブック ・救急隊員による外傷傷病者の救急車内における救護活動（主に輸液）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
10	通　年 (4 月～3 月)	**「JPTEC ＋ 輸液　実践論（４）」** 外傷時の循環管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「心肺停止前の静脈路確保」**JPTEC ガイドブック ・救急隊員による外傷傷病者の救急車内における救護活動（主に輸液）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
11	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
12	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
13	通　年 (4 月～3 月)	**「PEMEC　実践論（１）」** 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	**「PEMEC 総 論」**PEMEC ガイドブック ・PEMEC と JPTEC の違いについて理解し、内因性救護活動における初期評価などが実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
14	通　年 (4 月～3 月)	**「PEMEC　実践論（２）」** 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	**「PEMEC 問 診」**PEMEC ガイドブック ・内因性救護活動における問診（既往歴・現病歴など）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎

15	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
16	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
17	通　年 (4 月～3 月)	**「JPTEC ＋ 輸液　実践論（５）」** 外傷時の循環管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「心肺停止前の静脈路確保」**JPTEC ガイドブック ・救急隊員による外傷傷病者の救急車内における救護活動（主に輸液）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
18	通　年 (4 月～3 月)	**「JPTEC ＋ 輸液　実践論（６）」** 外傷時の循環管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「心肺停止前の静脈路確保」**JPTEC ガイドブック ・救急隊員による外傷傷病者の救急車内における救護活動（主に輸液）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
19	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
20	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
21	通　年 (4 月～3 月)	**「資器材取扱い応用論（１）」** パルスオキシメータの目的、適応、取扱い、注意事項を理解する。	**「パルスオキシメータ」** ・パルスオキシメータの基本的な操作行え、トラブルシューティング時の対処ができる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
22	通　年 (4 月～3 月)	**「資器材取扱い応用論（２）」** カプノメータの目的、適応、取扱い、注意事項を理解する。	**「カプノメータ」** ・カプノメータの基本的な操作行え、トラブルシューティング時の対処ができる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
23	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
24	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
25	通　年 (4 月～3 月)	**「PEMEC　実践論（３）」** 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	**「PEMEC 胸 痛」**PEMEC ガイドブック ・胸痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
26	通　年 (4 月～3 月)	**「PEMEC　実践論（４）」** 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	**「PEMEC 胸 痛」**PEMEC ガイドブック ・胸痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎

27	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
28	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
29	通　年 (4 月～3 月)	「資器材取扱い応用論（３）」 ビデオ硬性喉頭鏡の目的、適応、取扱い、注意事項を理解する。	「ビデオ硬性喉頭鏡」 ・ビデオ硬性喉頭鏡の基本的な操作行え、トラブルシューティング時の対処ができる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
30	通　年 (4 月～3 月)	「資器材取扱い応用論（４）」 ビデオ硬性喉頭鏡の目的、適応、取扱い、注意事項を理解する。	「ビデオ硬性喉頭鏡」 ・ビデオ硬性喉頭鏡の基本的な操作行え、トラブルシューティング時の対処ができる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
31	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
32	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
33	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（５）」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 腹 痛」PEMEC ガイドブック ・腹痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
34	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（６）」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 腹 痛」PEMEC ガイドブック ・腹痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
35	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
36	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
37	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（１）」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 総 論」PCEC ガイドブック ・PCEC と PEMEC の違いについて理解し、内因性救護活動における初期評価などが実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
38	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（２）」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 問 診」PCEC ガイドブック ・意識障害時の病院前救護活動における問診（既往歴・現病歴など）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎

39	通　年 (4 月～3 月)	**「乳幼児心肺蘇生法の実技指導」** 乳幼児に対する心肺蘇生法を 1 年生に対して教育指導する方法を理解する。	**「乳幼児心肺蘇生法の実技指導」** ・乳幼児に対する心肺蘇生法を 1 年生に対して教育指導できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
40	通　年 (4 月～3 月)	**「乳幼児心肺蘇生法の実技指導」** 乳幼児に対する心肺蘇生法を 1 年生に対して教育指導する方法を理解する。	**「乳幼児心肺蘇生法の実技指導」** ・乳幼児に対する心肺蘇生法を 1 年生に対して教育指導できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
41	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
42	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
43	通　年 (4 月～3 月)	**「PEMEC　実践論（7）」** 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	**「PEMEC 呼吸困難」**PEMEC ガイドブック ・呼吸困難傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
44	通　年 (4 月～3 月)	**「PEMEC　実践論（8）」** 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	**「PEMEC 呼吸困難」**PEMEC ガイドブック ・呼吸困難傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
45	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
46	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
47	通　年 (4 月～3 月)	**「PCEC　実践論（3）」** 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	**「PCEC 血糖測定」**PCEC ガイドブック ・意識障害時の病院前救護活動における適応に応じた血糖測定が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
48	通　年 (4 月～3 月)	**「PCEC　実践論（4）」** 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	**「PCEC ブドウ糖投与」**PCEC ガイドブック ・意識障害時の病院前救護活動における適応に応じた静脈路確保およびブドウ糖投与が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
49	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
50	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二

51	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（９）」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 胸 痛」PEMEC ガイドブック ・胸痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
52	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（10）」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 胸 痛」PEMEC ガイドブック ・胸痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
53	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
54	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
55	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（５）」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 低血糖・高血糖」PCEC ガイドブック ・低血糖時の病院前救護活動における適応に応じた静脈路確保およびブドウ糖投与が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
56	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（６）」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 低血糖・高血糖」PCEC ガイドブック ・低血糖時の病院前救護活動における適応に応じた静脈路確保およびブドウ糖投与が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
57	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
58	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
59	通　年 (4 月～3 月)	「PSLS　実践論（１）」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS　CPSS」PSLS ガイドブック ・脳卒中時の病院前救護活動における CPSS が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
60	通　年 (4 月～3 月)	「PSLS　実践論（２）」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS　KPSS」PSLS ガイドブック ・脳卒中時の病院前救護活動における KPSS が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
61	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
62	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二

63	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（11)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 腹 痛」PEMEC ガイドブック ・腹痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
64	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（12)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 腹 痛」PEMEC ガイドブック ・腹痛傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
65	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
66	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
67	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
68	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
69	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（７)」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 腎疾患」PCEC ガイドブック ・腎疾患（代謝性アシドーシス）における問診、臨床推論などの病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
70	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（８)」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 腎疾患」PCEC ガイドブック ・腎疾患（代謝性アシドーシス）における問診、臨床推論などの病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
71	通　年 (4 月～3 月)	「PSLS　実践論（３)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS　脳梗塞」PSLS ガイドブック ・脳卒中時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
72	通　年 (4 月～3 月)	「PSLS　実践論（４)」 脳梗塞時の病院前救護活動に関する観察、問診、臨床推論などについて理解する。	「PSLS　脳梗塞」PSLS ガイドブック ・脳卒中時における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
73	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（13)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 呼吸困難」PEMEC ガイドブック ・呼吸困難傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
74	通　年 (4 月～3 月)	「PEMEC　実践論（14)」 内因性救護活動に関する処置の適応、問診、臨床推論、緊急度判定について理解する。	「PEMEC 呼吸困難」PEMEC ガイドブック ・呼吸困難傷病者における問診、臨床推論、緊急度判定とともに病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎

75	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
76	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
77	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（７）」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 肝機能疾患」PCEC ガイドブック ・肝機能疾患（肝性昏睡）における問診、臨床推論などの病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
78	通　年 (4 月～3 月)	「PCEC　実践論（８）」 意識障害時の病院前救護活動に関する問診、臨床推論などについて理解する。	「PCEC 肝機能疾患」PCEC ガイドブック ・肝機能疾患（肝性昏睡）における問診、臨床推論などの病院前救護活動が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
79	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（１）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「災害時の救護活動の概念」 ・トリアージポスト、ゾーニング、CSCATTT について説明できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
80	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（２）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
81	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
82	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
83	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（１）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
84	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（２）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
85	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（３）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
86	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（４）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎

87	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
88	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。（ＳＰＩ）	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
89	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（３）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
90	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（４）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
91	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（５）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
92	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（６）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
93	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（７）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
94	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（８）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
95	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（５）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
96	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（６）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
97	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
98	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二

99	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
100	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
101	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論（９）」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
102	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論(10)」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
103	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論(11)」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
104	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論(12)」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
105	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論(13)」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
106	通　年 (4 月～3 月)	「総合シミュレーション論(14)」 JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	「救急現場活動各論」 ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
107	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（７）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
108	通　年 (4 月～3 月)	「MCLS　実践論（８）」 多数傷病者発生時の病院前救護活動に関するトリアージなどについて理解する。	「START トリアージ」 ・START 法トリアージによって客観的な緊急度判断が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
109	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
110	通　年 (4 月～3 月)	「消防官対応スキルチェック」 消防官に求められる資質について評価する。	「消防官対応スキルチェック」 ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二

111	通　年 (4 月～3 月)	**「総合シミュレーション論(15)」** JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	**「救急現場活動各論」** ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
112	通　年 (4 月～3 月)	**「総合シミュレーション論(16)」** JPTEC、PEMEC などを用いて観察、問診、処置、臨床推論について理解する。	**「救急現場活動各論」** ・与えられた想定に対して適切なガイドラインを用いて観察、問診。処置、臨床推論が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
113	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
114	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
115	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
116	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
117	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（１）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「病院搬入前スキル」** ・救急車到着前の医療機関で行われる医療スタッフによる事前準備などについて実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
118	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（２）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「病院搬入前スキル」** ・救急車到着前の医療機関で行われる医療スタッフによる事前準備などについて実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
119	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（３）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「観察と評価スキル」** ・救急車到着後の医療機関で行われる医療スタッフによる問診、臨床推論などについて実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
120	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（４）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「観察と評価スキル」** ・救急車到着後の医療機関で行われる医療スタッフによる問診、臨床推論などについて実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
121	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
122	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二

123	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（５）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「病院搬送後スキル」** ・救急車到着後の医療機関で行われる医療スタッフによる処置、検査などについて実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
124	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（６）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「病院搬送後スキル」** ・救急車到着後の医療機関で行われる医療スタッフによる処置、検査などについて実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
125	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（７）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「傷病者記録スキル」** ・医療機関における傷病者の観察とカルテなどの記録（実習記録を含む）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
126	通　年 (4 月～3 月)	**「臨床実習事前研修（８）** 臨床実習で必要となる知識・技術の基礎について理解する。	**「傷病者記録スキル」** ・医療機関における傷病者の観察とカルテなどの記録（実習記録を含む）が実施できる。	石 河・大 竹 柴 尾・廣 崎
127	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
128	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
129	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
130	通　年 (4 月～3 月)	**「消防官対応スキルチェック」** 消防官に求められる資質について評価する。	**「消防官対応スキルチェック」** ・消防官に問われる資質として教養および態度について説明できる。	大野　健二
131	通　年 (4 月～3 月)	**「社会保障学 総論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「5 疾病 5 事業」** テキスト P.30 参照 ・5 疾病 5 事業と救急医療との関連について説明できる。	大野　健二
132	通　年 (4 月～3 月)	**「社会保障学 総論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「地域包括ケアシステム」** テキスト P.49 参照 ・地域包括ケアシステムと救急医療との関連について説明できる。	大野　健二
133	通　年 (4 月～3 月)	**「反復 社会保障学 総論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「まとめ」** テキスト P.16 参照 ・社会保障との関連性のある救急活動の要点について説明できる。	大野　健二
134	通　年 (4 月～3 月)	**「処置各論 総論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「気管挿管の適応」** 標準テキスト P.358 参照 ・気管挿管の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二

135	通　年 (4 月～3 月)	**「処置各論 総論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「静脈路確保と輸液の適応」**テキスト P.383 参照 ・静脈路確保と輸液の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二
136	通　年 (4 月～3 月)	**「反復 処置各論 総論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「まとめ」** ・救急現場における各処置の適応・禁忌をふまえ、救急活動の要点について説明できる。	大野　健二
137	通　年 (4 月～3 月)	**「病院前救護 総論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「救命士と傷病者関係など」**テキスト P.253 参照 ・救急活動に必要なコミュニケーションの技法について説明できる。	大野　健二
138	通　年 (4 月～3 月)	**「病院前救護 総論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「ストレスに対するマネージメント」**P.296 ・救急活動でのストレスへの対応について説明できる。	大野　健二
139	通　年 (4 月～3 月)	**「反復 病院前救護 総論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「まとめ」** ・救急現場におけるデフュージングなどの要点について説明できる。	大野　健二
140	通　年 (4 月～3 月)	**「病態学/症候学 各論（1）」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「呼吸不全」**テキスト P.456 参照 ・肺内シャントの基本的病態について説明できる。 ・肺胞死腔の基本的病態について説明できる。	大野　健二
141	通　年 (4 月～3 月)	**「病態学/症候学 各論（2）」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「呼吸不全」**テキスト P.456 参照 ・換気血流比不均等の基本的病態について説明できる。 ・慢性呼吸不全の基本的病態について説明できる。	大野　健二
142	通　年 (4 月～3 月)	**「病態学/症候学 各論（3）」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「まとめ」** ・呼吸不全時における救急活動の要点について説明できる。	大野　健二
成績評価方法	各種シミュレーションスキルチェック【実技試験】（合計 100 点満点）			
準備学習など	**【　講師からのアドバス　】** 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。			

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	シミュレーション実習Ⅳ　（ Simulation Ⅳ ）
担当者	小澤 勝男、川辺 恵美子、城所 仁、杉村 修一郎、侘美 好昭、平松 礼司、益田 健史、森 健 ＊五十音順
単位数（時間数）	8 単位（　外来講師 116 時間 ＋ 専任講師 244 時間 ＝ 360 時間　）
学習方法	実　習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 **【　授業概要　】** シミュレーション教育より「平成 30 年度　救急救命士国家試験出題基準」に準じた事例を提示して、その模擬傷病者に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識・技術を系統的に学習する。 なお、医師もしくは看護師などの医療従事者として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「医療安全」** 標準テキスト P.277 参照 ・インシデントとアクシデントの違いについて説明できる。	侘美 好昭
2	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「救急救命士と生命倫理」** テキスト P.12 参照 ・生命倫理における善行の原則について説明できる。	侘美 好昭
3	後　期 (10 月～3 月)	**「病理学　実践論」** 救急医療に関連する病理学について理解する。	**「救急医療と病理学」** テキスト P.179 参照 ・日和見感染症を引き起こす病原体について説明できる。	益田 健史
4	後　期 (10 月～3 月)	**「病理学　実践論」** 救急医療に関連する病理学について理解する。	**「救急医療と病理学」** テキスト P.612 参照 ・高張性脱水と低張性脱水との違いについて説明できる。	益田 健史
5	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「救急救命処置(特定行為)」** テキスト P.344 参照 ・特定行為における心肺停止と心肺機能停止の違い、それぞれの適応条件について説明できる。	侘美 好昭

6	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「資器材を用いた観察」** テキスト P.332 参照 ・パルスオキシメータの機能、適応、使用上の注意点について説明できる。	侘美 好昭
7	後　期 (10 月～3 月)	**「病理学　実践論」** 救急医療に関連する病理学について理解する。	**「救急医療と病理学」** ・悪性新生物（癌腫・肉腫）の特徴について説明できる。	益田 健史
8	後　期 (10 月～3 月)	**「病理学　実践論」** 救急医療に関連する病理学について理解する。	**「救急医療と病理学」** テキスト P.210 参照 ・病的肥大と作業性肥大の違いについて説明できる。	益田 健史
9	後　期 (10 月～3 月)	**「社会保障学 実践論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「社会保障学（総合）」** ・在宅医療と地域包括ケアに対する対応（不搬送対応など）について説明できる。	平松 礼司
10	後　期 (10 月～3 月)	**「社会保障学 実践論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「社会保障学（総合）」** ・労働災害発生時に対する対応（不搬送対応など）について説明できる。	平松 礼司
11	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「心肺蘇生法」** テキスト P.419 参照 ・乳児の胸骨圧迫において圧迫部位、圧迫の深さ、リズムについて説明できる。	侘美 好昭
12	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「異物除去」** テキスト P.348 参照 ・反応の有無によって異なる異物除去の方法について説明できる。	侘美 好昭
13	後　期 (10 月～3 月)	**「意識障害 実践論」** 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「意識障害の原因疾患」** 標準テキスト P.488 参照 ・一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の違いについて説明できる。	益田 健史
14	後　期 (10 月～3 月)	**「意識障害 実践論」** 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	**「遷延性意識障害」** 救命士標準テキスト P.491 参照 ・遷延性意識障害の症候について説明できる。	益田 健史
15	後　期 (10 月～3 月)	**「救急現場で求められる解剖」** 救急現場で求められる解剖学および生理学について理解する。	**「体表からみる人体の構造」** テキスト P.63 参照 ・身体にある 3 つの軸と面について説明できる。 ・後腹膜腔に存在する臓器について説明できる。	杉村 修一郎
16	後　期 (10 月～3 月)	**「救急現場で求められる解剖」** 救急現場で求められる解剖学および生理学について理解する。	**「人体の構造と機能」** テキスト P.77 参照 ・脳神経の機能と観察所見について説明できる。 ・意識の中枢（覚醒中枢）について説明できる。	杉村 修一郎
17	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「自己注射用アドレナリン製剤」** P.391 参照 ・自己注射用アドレナリン製剤の用法・用量、救急救命士による介助の適応条件について説明できる。	侘美 好昭

18	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「アナフィラキシーショック」** P.469 参照 ・アナフィラキシーショックの随伴症状、緊急度・重症度の判断、観察、処置について説明できる。	侘美 好昭
19	後　期 (10 月～3 月)	**「感染症 実践論」** 感染症の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「感染症」** テキスト P.635 参照 ・麻疹に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	森　健
20	後　期 (10 月～3 月)	**「感染症 実践論」** 感染症の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「感染症」** テキスト P.635 参照 ・破傷風に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	森　健
21	後　期 (10 月～3 月)	**「救急現場で求められる解剖」** 救急現場で求められる解剖学および生理学について理解する。	**「人体の構造と機能」** テキスト P.77 参照 ・小児と成人の気道の構造の違いについて説明できる。 ・呼吸運動における吸気筋について説明できる。	杉村 修一郎
22	後　期 (10 月～3 月)	**「救急現場で求められる解剖」** 救急現場で求められる解剖学および生理学について理解する。	**「人体の構造と機能」** テキスト P.77 参照 ・循環の制御（平均血圧・心拍出量の構成因子）について説明できる。	杉村 修一郎
23	後　期 (10 月～3 月)	**「消化器系疾患 実践論」** 消化器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「消化器系疾患」** テキスト P.587 参照 ・マロリーワイス症候群に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	小澤　勝男
24	後　期 (10 月～3 月)	**「消化器系疾患 実践論」** 消化器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「消化器系疾患」** テキスト P.587 参照 ・上腸間膜動脈閉塞症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	小澤　勝男
25	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器疾患 実践論」** 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.567 参照 ・狭心症（安定型・不安定型・異型）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
26	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器疾患 実践論」** 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.567 参照 ・急性大動脈解離に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
27	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護 実践論」** 救急救命士法などの法的根拠に基づいた病院前救護活動の概要について理解する。	**「精神障害と搬送先医療機関」** テキスト P.37 ・精神障害による入院形態の特徴と搬送時の注意点について説明できる。	城所 仁
28	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護 実践論」** 救急救命士法などの法的根拠に基づいた病院前救護活動の概要について理解する。	**「救急自動車による搬送統計」** テキスト P.225 ・救急自動車による搬送統計より覚知から医療機関までに要した平均搬送時間について説明できる。	城所 仁
29	後　期 (10 月～3 月)	**「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」** 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「妊娠・分娩と救急疾患」** テキスト P.670 参照 ・正常分娩時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子

30	後　期 (10 月～3 月)	**「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」** 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「妊娠・分娩と救急疾患」** テキスト P.415 参照 ・新生児蘇生時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子
31	後　期 (10 月～3 月)	**「災害医療 実践論」** 多数傷病者などの災害発生時の病院前救護活動の概要について理解する。	**「CBRNE 災害（１）」** テキスト P.243 参照 ・CBRNE 災害におけるそれぞれの頭文字の意味について説明できる。	城所 仁
32	後　期 (10 月～3 月)	**「災害医療 実践論」** 多数傷病者などの災害発生時の病院前救護活動の概要について理解する。	**「CBRNE 災害（２）」** テキスト P.243 参照 ・多数傷病者における安全区域の設定でホットゾーンの特徴について説明できる。	城所 仁
33	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器疾患 実践論」** 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.567 参照 ・急性四肢動脈閉塞症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
34	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器疾患 実践論」** 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.567 参照 ・不整脈波形から心電図の解読方法について説明できる。	杉村 修一郎
35	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸器疾患 実践論」** 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.558 参照 ・急性喉頭蓋炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
36	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸器疾患 実践論」** 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.558 参照 ・市中肺炎、院内肺炎、誤嚥性肺炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
37	後　期 (10 月～3 月)	**「血液・免疫系疾患 実践論」** 血液・免疫系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「血液・免疫系疾患」** テキスト P.617 参照 ・貧血に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	森　健
38	後　期 (10 月～3 月)	**「血液・免疫系疾患 実践論」** 血液・免疫系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「血液・免疫系疾患」** テキスト P.617 参照 ・血友病に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	森　健
39	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷総論 実践論」** 受傷機転より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.688 参照 ・介達外力による外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	城所 仁
40	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷総論 実践論」** 受傷機転より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.691 参照 ・減速機序(加速度の作用)による外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	城所 仁
41	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸器疾患 実践論」** 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.558 参照 ・肺血栓塞栓症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎

42	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸器疾患 実践論」** 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.558 参照 ・過換気症候群に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
43	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「頭部・頸部・顔面外傷」** テキスト P.715 参照 ・硬膜下血腫および硬膜外血腫の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
44	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「胸部・腹部外傷」** テキスト P.733 参照 ・フレイルチェストの受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
45	後　期 (10 月～3 月)	**「筋・骨格系疾患 実践論」** 筋・骨格系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「筋・骨格系疾患」** テキスト P.622 参照 ・椎間板ヘルニアに対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	小澤　勝男
46	後　期 (10 月～3 月)	**「泌尿・生殖系疾患 実践論」** 泌尿・生殖系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「泌尿・生殖系疾患」** テキスト P.597 参照 ・急性腎不全に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	小澤　勝男
47	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「骨盤外傷」** テキスト P.743 参照 ・垂直剪断型骨盤骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
48	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「皮膚・軟部組織外傷」** テキスト P.627 参照 ・クラッシュ（圧挫）症候群の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	杉村 修一郎
49	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「頭部・頸部・顔面外傷」** テキスト P.722 参照 ・びまん性軸索損傷の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	城所 仁
50	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「胸部・腹部外傷」** テキスト P.733 参照 ・腹部コンパートメント症候群との受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	城所 仁
51	後　期 (10 月～3 月)	**「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」** 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「妊娠・分娩と救急疾患」** テキスト P.668 参照 ・異所性妊娠（子宮外妊娠）における観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子
52	後　期 (10 月～3 月)	**「妊婦・分娩と救急疾患 実践論」** 妊婦・分娩と救急疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「妊娠・分娩と救急疾患」** テキスト P.669 参照 ・常位胎盤早期剥離における観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	川辺 恵美子
53	後　期 (10 月～3 月)	**「社会保障学 実践論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「社会保障学（総合）」** テキスト P.47 参照 ・救急隊員と児童虐待（児童福祉法）に対する対応（不搬送対応など）について説明できる。	平松 礼司

54	後　期 (10 月～3 月)	**「社会保障学 実践論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「社会保障学（総合）」**テキスト P.51 参照 ・救急隊員と生活保護法適応者に対する対応（不搬送対応など）について説明できる。	平松 礼司
55	後　期 (10 月～3 月)	**「総合 疾病救急医学 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「総合 疾病救急医学」** ・傷病者の観察所見および症候より疾病の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
56	後　期 (10 月～3 月)	**「総合 疾病救急医学 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「総合 疾病救急医学」** ・傷病者の観察所見および症候より疾病の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
57	後　期 (10 月～3 月)	**「総合 外傷救急医学 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「総合 外傷救急医学」** ・傷病者の観察所見および受傷機転より外傷の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
58	後　期 (10 月～3 月)	**「総合 外傷救急医学 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「総合 外傷救急医学」** ・傷病者の観察所見および受傷機転より外傷の原因を列挙して、その病態について説明できる。	杉村 修一郎
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	シミュレーション実習Ⅳ　（ Simulation Ⅳ ）
担当者	大野　健二
単位数（時間数）	8 単位（　外来講師 116 時間 ＋ 専任講師 244 時間 ＝ 360 時間　）
学習方法	実　習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【　学習目的　】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 **【　授業概要　】** シミュレーション教育より「平成 30 年度　救急救命士国家試験出題基準」に準じた事例を提示して、その模擬傷病者に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識・技術を系統的に学習する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（循環管理）実践論」** 循環管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「胸骨圧迫の適応」** 標準テキスト P.376 参照 ・乳幼児、小児、成人の胸骨圧迫の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二
2	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（循環管理）実践論」** 循環管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「静脈路確保と輸液の適応」** テキスト P.383 参照 ・静脈路確保と輸液の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二
3	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（呼吸管理）実践論」** 呼吸管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「気管挿管の適応」** 標準テキスト P.358 参照 ・気管挿管の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二
4	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（呼吸管理）実践論」** 呼吸管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「ラリンゲアルチューブの適応」** P.354 参照 ・ラリンゲアルチューブの目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二
5	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（外傷管理）実践論」** 外傷管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「止血の適応」** 標準テキスト P. 399 参照 ・止血の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二

6	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（外傷管理）実践論」** 外傷管理に関する処置の適応、評価、禁忌、注意について理解する。	**「創傷処置の適応」** 標準テキスト P.402 参照 ・創傷処置の目的、適応、方法と手順について説明できる。	大野　健二
7	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（総合）実践論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「処置各論（総合）」** ・救急現場における高度な器具を用いた気道確保プロトコールについて説明できる。	大野　健二
8	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（総合）実践論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「処置各論（総合）」** ・救急現場における気管挿管プロトコールについて説明できる。	大野　健二
9	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（総合）実践論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「処置各論（総合）」** ・救急現場における静脈路確保および輸液プロトコールについて説明できる。	大野　健二
10	後　期 (10 月～3 月)	**「処置各論（総合）実践論」** 救急現場における処置の適応、評価、禁忌、注意について総合的に理解する。	**「処置各論（総合）」** ・救急現場における薬剤投与プロトコールについて説明できる。	大野　健二
11	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護（基礎）実践論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「災害医療における活動」** テキスト P.295 参照 ・多発傷病者対応時の一次トリアージおよび二次トリアージについて説明できる。	大野　健二
12	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護（基礎）実践論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「災害医療における活動」** テキスト P.295 参照 ・多発傷病者対応時のゾーニングについて説明できる。	大野　健二
13	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護（総合）実践論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「ＭＣＬＳシミュレーション」** ・多数傷病者対応標準化プログラムの活動根拠、目的について説明できる。	大野　健二
14	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護（総合）実践論」** 病院前救護における搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	**「ＭＣＬＳシミュレーション」** ・多数傷病者対応標準化プログラムにおけるＣＳＣＡＴＴＴについて説明できる。	大野　健二
15	後　期 (10 月～3 月)	**「傷病者観察 実践論」** 救急現場における観察の評価、フィードバック、注意について理解する。	**「傷病者観察（総合）」** テキスト P.304 参照 ・異常呼吸パターンと病態の関連について説明できる。 ・年齢による脈拍数などの変化について説明できる。	大野　健二
16	後　期 (10 月～3 月)	**「傷病者観察 実践論」** 救急現場における観察の評価、フィードバック、注意について理解する。	**「傷病者観察（総合）」** テキスト P.312 参照 ・ドロッピングテストについて説明できる。 ・シンシナティ脳卒中スケールについて説明できる。	大野　健二
17	後　期 (10 月～3 月)	**「社会保障学 実践論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「社会保障学（総合）」** テキスト P.258 参照 ・DNAR 対象傷病者に対する対応（不搬送対応など）について説明できる。	大野　健二

18	後　期 (10 月～3 月)	**「社会保障学 実践論」** 救急医療に関連する社会保障制度などについて理解する。	**「社会保障学（総合）」** テキスト P.47 参照 ・児童虐待の恐れのある場合における対応（報告機関など）について説明できる。	大野　健二
19	後　期 (10 月～3 月)	**「傷病者観察（総合）実践論」** 救急現場における観察の評価、フィードバック、注意について総合的に理解する。	**「傷病者観察（総合）」** テキスト P.315 参照 ・外頸静脈の怒張時の病態または疾患について説明できる。	大野　健二
20	後　期 (10 月～3 月)	**「傷病者観察（総合）実践論」** 救急現場における観察の評価、フィードバック、注意について総合的に理解する。	**「傷病者観察（総合）」** テキスト P.316 参照 ・連続性ラ音および断続性ラ音時の病態または疾患について説明できる。	大野　健二
21	後　期 (10 月～3 月)	**「病理学/法医学/薬学 実践論」** 救急医療に関連する病理学、法医学、薬学などについて理解する。	**「病理学/法医学」** テキスト P.194 参照 ・現場における明らかな死亡の判断について説明できる。	大野　健二
22	後　期 (10 月～3 月)	**「病理学/法医学/薬学 実践論」** 救急医療に関連する病理学、法医学、薬学などについて理解する。	**「薬　学」** テキスト P.207 参照 ・インスリン製剤、自己注射用アドレナリン製剤の適応、禁忌について説明できる。	大野　健二
23	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護 実践論」** 病院前における社会的な背景を把握し、処置、観察などを総合的に理解する。	**「病院前救護」** テキスト P.429 参照 ・在宅療法継続中の傷病者の現場活動における観察、処置、搬送時の注意点について説明できる。	大野　健二
24	後　期 (10 月～3 月)	**「病院前救護 実践論」** 病院前における社会的な背景を把握し、処置、観察などを総合的に理解する。	**「病院前救護」** テキスト P.409 参照 ・事故車両からの救出方法、事故車内の観察・処置の注意点について説明できる。	大野　健二
25	後　期 (10 月～3 月)	**「意識障害・頭痛 実践論」** 意識障害・頭痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「意識障害」** テキスト P.489 参照 ・傷病者の観察所見より意識障害の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
26	後　期 (10 月～3 月)	**「意識障害・頭痛 実践論」** 意識障害・頭痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「頭　痛」** テキスト P.492 参照 ・傷病者の観察所見より頭痛の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
27	後　期 (10 月～3 月)	**「胸痛・腹痛 実践論」** 胸痛・腹痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「胸　痛」** テキスト P.522 参照 ・傷病者の観察所見より胸痛の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
28	後　期 (10 月～3 月)	**「胸痛・腹痛 実践論」** 胸痛・腹痛の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「腹　痛」** テキスト P.530 参照 ・傷病者の観察所見より腹痛の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
29	後　期 (10 月～3 月)	**「運動障害・痙攣 実践論」** 運動障害・痙攣の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「運動障害」** テキスト P.505 参照 ・傷病者の観察所見より運動障害の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二

30	後　期 (10 月～3 月)	**「運動障害・痙攣 実践論」** 運動障害・痙攣の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「痙　攣」** テキスト P.497 参照 ・傷病者の観察所見より痙攣の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
31	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・1 分以上の痙攣を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
32	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・20 分以上の胸痛を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
33	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・呼気性呼吸困難を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
34	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・間欠性腹痛を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
35	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「緊急度・重症度の判断」** テキスト P.700 参照 ・緊急度・重症度の高い胸痛をきたす原因疾患について説明できる。	大野　健二
36	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「緊急度・重症度の判断」** テキスト P.700 参照 ・緊急度・重症度の高い腹痛をきたす原因疾患について説明できる。	大野　健二
37	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸不全・心不全 実践論」** 呼吸不全・心不全の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「呼吸不全」** テキスト P.455 参照 ・傷病者の観察所見より呼吸不全の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
38	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸不全・心不全 実践論」** 呼吸不全・心不全の原因を列挙し、それぞれの救急活動について理解する。	**「心不全」** テキスト P.461 参照 ・傷病者の観察所見より心不全の原因を列挙して、その病態について説明できる。	大野　健二
39	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・レッドフラグサイン（腰痛）を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
40	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・激しい頭痛を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
41	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・意識障害を呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二

42	後　期 (10 月～3 月)	**「病態学/症候学（総合） 実践論」** 観察所見から症候と病態を把握し、適切な救急活動への反映について理解する。	**「病態学/症候学（総合）」** ・ショックを呈している傷病者の原因を列挙して、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
43	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器疾患 実践論」** 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.569 参照 ・急性心筋梗塞に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
44	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器疾患 実践論」** 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.582 参照 ・大動脈解離に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
45	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸器疾患 実践論」** 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.561 参照 ・気管支喘息（重責発作）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
46	後　期 (10 月～3 月)	**「呼吸器疾患 実践論」** 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.562 参照 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
47	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器/呼吸器（総合） 実践論」** 循環器および呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「循環器疾患（総合）」** ・胸痛を鑑別し、循環器疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
48	後　期 (10 月～3 月)	**「循環器/呼吸器（総合） 実践論」** 循環器および呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「呼吸器疾患（総合）」** ・呼吸困難を鑑別し、呼吸器疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
49	後　期 (10 月～3 月)	**「神経系疾患 実践論」** 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「神経系疾患」** テキスト P.550 参照 ・くも膜下出血に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
50	後　期 (10 月～3 月)	**「神経系疾患 実践論」** 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「神経系疾患」** テキスト P.548 参照 ・脳梗塞（脳塞栓・脳血栓）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
51	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「緊急度・重症度の判断」** テキスト P.327 参照 ・緊急度・重症度の高い呼吸困難をきたす原因疾患について説明できる。	大野　健二
52	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「緊急度・重症度の判断」** テキスト P.327 参照 ・緊急度・重症度の高い意識障害をきたす原因疾患について説明できる。	大野　健二
53	後　期 (10 月～3 月)	**「内分泌系疾患 実践論」** 内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「内分泌系疾患」** テキスト P.608 参照 ・低血糖に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二

54	後　期 (10 月～3 月)	**「内分泌系疾患 実践論」** 内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「内分泌系疾患」** テキスト P.611 参照 ・糖尿病性ケトアシドーシスに対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
55	後　期 (10 月～3 月)	**「神経/内分泌（総合） 実践論」** 神経および内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「神経系疾患（総合）」** ・頭痛を鑑別し、神経系疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
56	後　期 (10 月～3 月)	**「神経/内分泌（総合） 実践論」** 神経および内分泌系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「内分泌系疾患（総合）」** ・意識障害を鑑別し、内分泌系疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
57	後　期 (10 月～3 月)	**「消化器系疾患 実践論」** 消化器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「消化器系疾患」** テキスト P.592 参照 ・絞扼性イレウスに対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
58	後　期 (10 月～3 月)	**「消化器系疾患 実践論」** 消化器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「消化器系疾患」** テキスト P.590 参照 ・食道静脈瘤破裂に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
59	後　期 (10 月～3 月)	**「腎/泌尿器/感染 実践論」** 腎・泌尿器系疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「腎/泌尿器」** テキスト P.599 参照 ・急性腎盂腎炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
60	後　期 (10 月～3 月)	**「腎/泌尿器/感染 実践論」** 腎・泌尿器系疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「感　染」** テキスト P.563 参照 ・肺炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
61	後　期 (10 月～3 月)	**「消化器/腎など（総合） 実践論」** 消化器などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「腎/泌尿器（総合）」** ・腰痛を鑑別し、腎/泌尿器系疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
62	後　期 (10 月～3 月)	**「消化器/腎など（総合） 実践論」** 消化器などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「感　染（総合）」** ・発熱を鑑別し、感染性疾患に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
63	後　期 (10 月～3 月)	**「小児に特有な疾患等 実践論」** 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「小児に特有な疾患」** テキスト P.654 参照 ・溶血性尿毒症症候群に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
64	後　期 (10 月～3 月)	**「小児に特有な疾患等 実践論」** 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「高齢者に特有な疾患」** テキスト P.562 参照 ・肺気腫に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
65	後　期 (10 月～3 月)	**「小児系疾患等（総合） 実践論」** 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「妊娠・分娩と救急疾患」** テキスト P.665 参照 ・正常分娩時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二

66	後　期 (10 月～3 月)	**「小児系疾患等（総合） 実践論」** 小児に特有な疾患などの疫学、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「精神障害」** テキスト P.683 参照 ・パニック障害に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
67	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷総論 実践論」** 受傷機転より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.697 参照 ・四輪車の外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
68	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷総論 実践論」** 受傷機転より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.699 参照 ・墜落・転落による外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
69	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷総論（総合） 実践論」** 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.700 参照 ・挟圧外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
70	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷総論（総合） 実践論」** 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.695 参照 ・鋭的損傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
71	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「頭部・頸部・顔面外傷」** テキスト P.717 参照 ・頭蓋底骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
72	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論 実践論」** 各々の外傷より病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「胸部・腹部外傷」** テキスト P.735 参照 ・緊張性気胸の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
73	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論（総合） 実践論」** 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「骨盤外傷」** テキスト P.744 参照 ・垂直剪断型骨盤骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
74	後　期 (10 月～3 月)	**「外傷各論（総合） 実践論」** 外傷における受傷機転、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「皮膚・軟部組織外傷」** テキスト P.760 参照 ・熱傷（広範囲）の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
75	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動Ⅰ 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「災害医療における活動」** テキスト P.244 参照 ・多発傷病者対応時のゾーニングについて再度、確認・説明できる。	大野　健二
76	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動Ⅰ 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「ストレスへの対応」** テキスト P.296 参照 ・デフュージングの目的、対象、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二
77	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 観察・処置Ⅰ 実践論」** 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「胸骨圧迫の適応」** 標準テキスト P.376 参照 ・乳幼児、小児、成人の胸骨圧迫の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二

78	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 観察・処置Ⅰ 実践論」** 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「静脈路確保と輸液の適応」** テキスト P.383 参照 ・静脈路確保と輸液の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二
79	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 症候・病態学Ⅰ 実践論」** 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「意識障害」** テキスト P.489 参照 ・傷病者の観察所見より意識障害の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野　健二
80	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 症候・病態学Ⅰ 実践論」** 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「頭　痛」** テキスト P.492 参照 ・傷病者の観察所見より頭痛の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野　健二
81	後　期 (10 月～3 月)	**「在宅医療 実践論」** 在宅医療に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「在宅医療」** テキスト P.429 参照 ・気管切開時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
82	後　期 (10 月～3 月)	**「在宅医療 実践論」** 在宅医療に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「在宅医療」** テキスト P.429 参照 ・血液透析時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
83	後　期 (10 月～3 月)	**「特殊外傷 実践論」** 特殊外傷の病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「皮膚・軟部組織外傷」** テキスト P.750 参照 ・コンパートメント症候群の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	大野　健二
84	後　期 (10 月～3 月)	**「特殊外傷 実践論」** 特殊外傷の病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「特殊外傷」** テキスト P.779 参照 ・縊頸および絞頸の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送について説明できる。	大野　健二
85	後　期 (10 月～3 月)	**「精神障害 実践論」** 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「精神障害」** テキスト P.680 参照 ・自殺企図者に対する「TALK の原則」について説明できる。	大野　健二
86	後　期 (10 月～3 月)	**「精神障害 実践論」** 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「精神障害」** テキスト P.680 参照 ・統合失調症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
87	後　期 (10 月～3 月)	**「精神障害 実践論」** 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「精神障害」** テキスト P.681 参照 ・双極性障害（主にうつ病）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
88	後　期 (10 月～3 月)	**「精神障害 実践論」** 精神障害の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「精神障害」** テキスト P.684 参照 ・解離性（転換性）障害に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
89	後　期 (10 月～3 月)	**「高齢者に特有な疾患 実践論」** 高齢者に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「高齢者に特有な疾患」** テキスト P.662 参照 ・認知症に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二

90	後　期 (10 月～3 月)	**「高齢者に特有な疾患 実践論」** 高齢者に特有な疾患の概要、病態、症候、観察、処置について実践的に理解する。	**「高齢者に特有な疾患」** テキスト P.663 参照 ・誤嚥性肺炎に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
91	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「熱中症に対する現場活動」** P.817 参照 ・Ⅲ度熱中症に対する観察、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
92	後　期 (10 月～3 月)	**「救急活動の基礎知識」** 救急隊員として最低限度であり、必要不可欠な知識・技術について理解する。	**「急性中毒に対する現場活動」** P.798 参照 ・有機リン殺虫剤による中毒、覚醒剤中毒に対する観察、処置、搬送について説明できる。	大野　健二
93	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 疾病救急医学Ⅰ 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「循環器疾患」** テキスト P.569 参照 ・急性心筋梗塞に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
94	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 疾病救急医学Ⅰ 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「呼吸器疾患」** テキスト P.562 参照 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
95	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 外傷救急医学Ⅰ 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.928 ・四輪車の外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
96	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 外傷救急医学Ⅰ 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「外傷総論」** テキスト P.697 参照 ・墜落による外傷時の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
97	後　期 (10 月～3 月)	**「中毒・環境障害Ⅰ 実践論」** 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「中毒各論」** テキスト P.806 参照 ・覚醒剤中毒に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
98	後　期 (10 月～3 月)	**「中毒・環境障害Ⅰ 実践論」** 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「環境障害」** テキスト P.812 参照 ・溺水に対する発生機序、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
99	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動Ⅱ 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「社会保障学（総合）」** テキスト P.258 参照 ・DNAR 対象傷病者に対する対応（不搬送対応など）について再度、確認・説明できる。	大野　健二
100	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動Ⅱ 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「社会保障学（総合）」** テキスト P.47 参照 ・児童虐待の恐れのある場合における対応（報告機関など）について再度、確認・説明できる。	大野　健二
101	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 観察・処置Ⅱ 実践論」** 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「気管挿管の適応」** 標準テキスト P.358 参照 ・気管挿管の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二

102	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 観察・処置Ⅱ 実践論」** 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「ラリンゲアルチューブの適応」** P.354 参照 ・ラリンゲアルチューブの目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二
103	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 症候・病態学Ⅱ 実践論」** 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「胸　痛」** テキスト P.522 参照 ・傷病者の観察所見より胸痛の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野　健二
104	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 症候・病態学Ⅱ 実践論」** 症候・病態生理学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「腹　痛」** テキスト P.530 参照 ・傷病者の観察所見より腹痛の原因を列挙して、その病態について再度、確認・説明できる。	大野　健二
105	後　期 (10 月～3 月)	**「スチューデントラリー」** スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	**「シミュレーション教育のあり方」** ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野　健二
106	後　期 (10 月～3 月)	**「スチューデントラリー」** スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	**「シミュレーション教育のあり方」** ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野　健二
107	後　期 (10 月～3 月)	**「スチューデントラリー」** スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	**「シミュレーション教育のあり方」** ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野　健二
108	後　期 (10 月～3 月)	**「スチューデントラリー」** スチューデントラリーにおける実習生の救護活動の支援について理解する。	**「シミュレーション教育のあり方」** ・シミュレーション教育における運営活動内容、スタッフ活動内容について説明できる。	大野　健二
109	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 疾病救急医学Ⅱ 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「神経系疾患」** テキスト P.548 参照 ・脳梗塞（脳塞栓など）に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
110	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 疾病救急医学Ⅱ 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「内分泌系疾患」** テキスト P.608 参照 ・低血糖に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
111	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 外傷救急医学Ⅱ 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「頭部・頸部・顔面外傷」** テキスト P.717 参照 ・頭蓋底骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
112	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 外傷救急医学Ⅱ 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「胸部・腹部外傷」** テキスト P.735 参照 ・緊張性気胸の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
113	後　期 (10 月～3 月)	**「中毒・環境障害Ⅱ 実践論」** 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「中毒各論」** P.798 参照 ・有機リン中毒に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二

114	後　期 (10 月～3 月)	**「中毒・環境障害Ⅱ 実践論」** 中毒・環境障害に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「環境障害」** テキスト P.815 参照 ・熱中症に対する発生機序、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について説明できる。	大野　健二
115	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動Ⅲ 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「病理学/法医学」** テキスト P.194 参照 ・現場における明らかな死亡の判断について再度、確認・説明できる。	大野　健二
116	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 救護活動Ⅲ 実践論」** これまで学習した内容の再認識を図り、さらに円滑的な救護活動について理解する。	**「薬　学」** テキスト P.200 参照 ・インスリン製剤、自己注射用アドレナリン製剤の適応、禁忌について再度、確認・説明できる。	大野　健二
117	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 観察・処置Ⅲ 実践論」** 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「止血の適応」** 標準テキスト P.399 参照 ・止血の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二
118	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 観察・処置Ⅲ 実践論」** 観察・処置に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「創傷処置の適応」** 標準テキスト P.402 参照 ・創傷処置の目的、適応、方法と手順について再度、確認・説明できる。	大野　健二
119	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 疾病救急医学Ⅲ 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「消化器系疾患」** テキスト P.590 参照 ・食道静脈瘤破裂に対する観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
120	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 疾病救急医学Ⅲ 実践論」** 疾病救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「妊娠・分娩と救急疾患」** テキスト P.665 参照 ・正常分娩時の観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
121	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 外傷救急医学Ⅲ 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「骨盤外傷」** テキスト P.743 参照 ・垂直剪断型骨盤骨折の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
122	後　期 (10 月～3 月)	**「反復 外傷救急医学Ⅲ 実践論」** 外傷救急医学に関連した総合的な救護活動について理解する。	**「皮膚・軟部組織外傷」** テキスト P.760 参照 ・熱傷（広範囲）の受傷機転、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法について再度、確認・説明できる。	大野　健二
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** 総合的な知識・技術を統合的に用いてシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科　2 年次
科目名	臨床実習　（ Bedside teaching ）
担当者	笠原 容子、杉村　修一郎、実習指導医　＊五十音順
単位数（時間数）	4 単位（　臨床実習事前研修 20 時間 ＋ 臨床実習 160 時間 ＝ 180 時間　）
学習方法	臨床実習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 臨床実習の学習の手引き（東海医療工学専門学校用）

授業概要と目的
【　学習目的　】 救急救命士病院実習ガイドラインに準じた救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係わる技能の習得を主体に学習する。さらに、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて、診療の補助に対する理解について学習する。 ＊本実習は厚生労働省指定カリキュラムの「臨床実習（160 時間）」と臨床実習事前研修（20 時間）となる。 **【　授業概要　】** a. 病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深める。 b. 医師、看護婦など医療スタッフの仕事を理解し、その連携を知る。 c. 病院における救急患者への対応の仕組みを知る。 d. 救急室に搬入された救急患者への処置、診断の全体像を理解する。 e. ICU における患者管理を理解する。 f. 救急患者、家族に対するいたわりの心を持つ。 g. インフォームドコンセントの重要性を理解する。 なお、医師もしくは看護師などの医療従事者として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし事前教育を行う。 また臨床実習においては臨床実習指導医として厚生労働省が認可する医療機関で救急医学に関する臨床経験のある各々の実習指導医が、その専門分野における経験を活かし臨床教育を行う。

回 （コマ）	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1	後　期 (10 月～3 月)	**「臨床コミュニケーション（1）」** 医療従事者、患者とその家族に対するコミュニケーション技法について理解する。	**「医療従事者とのコミュニケーション」** ・医療機関における専門用語（医学用語など）を用いたコミュニケーションが実施できる。	笠原 容子
2	後　期 (10 月～3 月)	**「臨床コミュニケーション（2）」** 医療従事者、患者とその家族に対するコミュニケーション技法について理解する。	**「患者と家族とのコミュニケーション」** ・年齢、性別、疾病状況に応じたコミュニケーションが実施できる。	笠原 容子

3	後　期 (10 月～3 月)	**「心電図波形の解読（１）」** 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解読方法について理解する。	**「心電図の解読」** ・心電図モニターを用いて心電図波形の解読ポイントについて説明できる。	杉村 修一郎
4	後　期 (10 月～3 月)	**「心電図波形の解読（２）」** 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解読方法について理解する。	**「心電図の解読」** ・心電図波形記録より心拍数などを計算式に基づいて計算することができる。	杉村 修一郎
5	後　期 (10 月～3 月)	**「心電図波形の解読（３）」** 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解読方法について理解する。	**「心電図の解読」** ・ST 変化および心室性期外収縮など不整脈に対する解読ポイントについて説明できる。	杉村 修一郎
6	後　期 (10 月～3 月)	**「心電図波形の解読（４）」** 臨床実習における不整脈などの心電図波形の解読方法について理解する。	**「心電図の解読」** ・房室ブロックや心房性不整脈などの心電図波形の解読ポイントについて説明できる。	杉村 修一郎
7	後　期 (10 月～3 月)	**「問診と臨床推論（１）」** 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	**「主訴と臨床推論」** ・疾病状況に応じた自覚症状の主要を問診から情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
8	後　期 (10 月～3 月)	**「問診と臨床推論（２）」** 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	**「現病歴と臨床推論」** ・疾病状況に応じた現病歴を問診から情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
9	後　期 (10 月～3 月)	**「問診と臨床推論（３）」** 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	**「既往歴と臨床推論」** ・疾病状況に応じた既往歴を問診から情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
10	後　期 (10 月～3 月)	**「問診と臨床推論（４）」** 主訴、現病歴、既往歴などの問診によって臨床推論の考察方法を理解する。	**「模擬傷病者に対するスキルチェック」** ・模擬傷病者に対して疾病状況に応じた問診よる情報収集を行い、臨床推論が実施できる。	杉村 修一郎
11～90	【前期日程】 後　期 (10 月～3 月)	**「臨床実習」** 救急救命士病院実習ガイドラインを基盤とした「臨床実習の学習の手引き」に記載されている医療機関での実習内容について理解する。 ＊　実習内容に関しては各医療機関の実情をふまえて随時変更する。		【各医療機関】 実習指導医
	【後期日程】 後　期 (10 月～3 月)			【各医療機関】 実習指導医
成績評価方法		臨床実習における知識、技術、人間性などの 5 項目（100 点満点）によって評価する。 ＊採点詳細（知識 20%、技能 20%、理解・応用力 20%、態度 20%、総括（その他）20%）		
準備学習など		**【　講師からのアドバス　】** これまで学習してきた知識・技術を医療機関での実習で反映させていく。		